

ワールドワイド携帯電話四半期動向

2013年11月6日報告

2013年3Qの世界の携帯電話市場概況

加入者数推移

オペレータによるユーザ整理などもあり加入トレンドにバラツキが生じているが、7-9月期の新規加入件数は前期を下回った。アジアでは新規加入を牽引した南アジア、中央アジア新興国も鈍化傾向を鮮明にし、またアフリカ諸国も新規加入の頭打ちが続いており、新規加入の糊白は急速に狭まってきた。3Qの方式別ではLTEと中国TD-SCDMAが大きく伸長した。

3Qのグローバルの新規加入件数は前期を大幅に下回った。アジアでは有力オペレータ Indosat が累積ベースで前期比マイナスになり、インドオペレータに続きユーザ整理を実施した公算が高い。アジア最大国中国では China Mobile が前期の新規加入水準を上回ったものの、競合 China Unicom、China Telecom は前期に対しマイナスを記録した。

携帯電話新興国バングラデシュ、ネパール、中央アジア諸国もすでにピークアウトを迎え、新規加入を牽引したアジアもダウントrendが鮮明になってきた。

端末需要

3Qの端末販売台数は Smart Phone が伸長し、前期比 4.8%の伸長になった。全端末に占める Smart Phone 比率は台数ベースで 60%の大台を初めて越えた。Smart Phone では 2 台に 1 台が Samsung か Apple 製という超寡占状況を生み、Smart Phone の優位性がそのまま企業間格差になっている。3Qの端末収益性では Samsung、Apple 以外の有力メーカーは軒並み、収支均衡か赤字決算になり、Smart Phone 分野で先行した HTC、Blackberry は企業存続すら危ぶむ見方も出てきた。

10月に Samsung と LG は相前後してフレキシブル Smart Phone を、Motorola は Project Ara という新しいコンセプトを発表した。韓国 2 社は曲面スクリーンを採用、Samsung が Galaxy Round、LG が G Flex ブランドで製品化に成功した。2機種とも完全な折り曲げは出来ないが、わずかに弾性をもたせており、G Flex の場合手で押すと平面になり、手を離すと元のアーチ形状に戻るようになっている。G Flex は 11月12日に韓国市場で発売を開始する。

Motorola は Smart Phone の各フレームとモジュールをユーザ側で選択し自由な組み替えが可能になっており、ハードウェアのカスタマイズ化という新しい概念を提示した。韓国 2 社、Motorola のいずれも 2014年以降の技術トレンドを先取りするもので、斬新なテーマ性を有している。

2013年3Q(7-9月)調査結果 目次

1	2013年3Q(2013年7-9月)結果の要約	3	7	端末販売動向推移	22
2	10-12月の出荷、販売見通し	4	7.1.	2013年3Q端末販売動向	22
3	地域別累積加入推移(四半期別)	6	7.2.	2013年3QのSmart Phone販売動向	25
3.1.	中国、インド、ブラジル、ロシア加入推移	9	7.3.	年別販売台数推移	28
4	方式別加入推移(四半期別)	11	8	主要メーカーの2013年3Q動向	30
5	加入者年別推移	14	8.1.	Samsung	30
5.1.	地域別	14	8.2.	Nokia	33
5.2.	方式別	15	8.3.	Apple	37
6	主要オペレータ加入者数推移	16	8.4.	LG	41
6.1.	アジア	16	8.5.	ソニーモバイル	44
6.2.	西欧	17	8.6.	Motorola Mobility	45
6.3.	東欧	18	8.7.	Blackberry	46
6.4.	北米	19	8.8.	HTC	47
6.5.	中南米	19	9	端末各社のお荷計画	48
6.6.	中東/アフリカ	20	10	製品在庫状況ほか	49
6.7.	主要オペレータ加入者数推移の世界全体に占める推定比率	21			